



# 対馬丸通信

財団法人  
対馬丸記念会

対馬丸記念館と遺族やサポーターを結ぶ、ふれあいのコミュニケーション紙

## 祝「対馬丸記念館」オープン



### ごあいさつ

対馬丸が悪石島沖で米潜水艦ボーフィンに撃沈されて今日でちょうど60年という月日が経ってしまいました。しかし遺族にとって60年といえども犠牲者はいつまでも当時の姿のまま脳裏に焼きつき悲しみはいえることがありません。

常設展示室には犠牲者の名前が、学んだ学校や地域の写真を背景に記されています。「60年間長かったですね。ごめんなさい。どうぞ思い出の学校、町、村に帰っていらっしやい。そしてあなたたちが成しえなかったことを今の子どもたちに語りかけてともに平和な世の中にしてください」というメッセージを込めたつもりです。未来の子どもたちのために平和な世界にすることは私たちの責務であり今日から一步を踏み出さねばなりません。

亡くなった方々の命は帰ってきません。残された私たちの悲しみも消えることはありません。記念館の入り口には「いまも世界では報復の連鎖が子どもたちから新たな夢と希望を奪っています。この報復の連鎖を断ち切る努力を私たち一人一人がすること、これこそが対馬丸犠牲者から私たちに指し示された『課題』ではないでしょうか」という言葉が掲げられています。戦争が人知の及ばぬ自然現象ではなく、人の心の中から発するものならば、世界の人が心をひとつにすれば平和は夢ではなく実現するはずです。沖縄には「命どう宝」というすばらしい言葉があります。そうです、もっとも大切なものは「命」なのです。その命は自分の命であり、隣人の命、世界の人の命、そして地球の命なのです。わたしたちはこの小さな島沖縄の「対馬丸記念館」から世界へ「命どう宝」のメッセージを送り続けようと思っております。

この記念館が末永く世界平和に貢献できるよう、皆様にご理解とご協力をお願いします。

財団法人対馬丸記念会 会長 高良 政勝



(2) 平成16年10月15日

# フォトキュメント 8.22

平成16年8月22日(日)午後1:00 小桜の塔にて 第52回対馬丸慰霊祭



60回忌を迎えた今年8月22日は、遺族・関係者にとって特別の日となりました。小桜の塔での慰霊祭に始まり、沈没時刻にあわせた初めての追悼セレモニーなど当日の催しを写真記録でふりかえってみました。



平成16年度第52回対馬丸戦没者慰霊祭が那覇市若狭の小桜之塔でしめやかに行われました。今年の慰霊祭には、記念館開館式典の開催も相俟って、遺族・関係者500名以上もの方々が参列されました。60年という節目を迎え参列者が高齢化する一方で、対馬丸犠牲者の姪や甥という「次の世代」の参列する姿も見られました。対馬丸撃沈事件を確実に受け継ぎ、風化させまいとする体験・記憶の継承が始まろうとしています。



平成16年8月21日(土)~23(月) 悪石島の子どもが来沖



1962年に「対馬丸慰霊碑」が建立されて以来、42年もの長きにわたって慰霊碑を守り続けてくださっている悪石島の皆様。感謝の気持ちをなんとか形に出来ないかと、今回、財団では悪石島小中学校の生徒さんと引率の先生を慰霊祭と開館式典にご招待いたしました。

島を代表して来てくださったのは、有川友里さんと有川建くん、引率の新徳昌子先生。慰霊祭ではメッセージの朗読、式典では扁額の受取、テープカットと大変な活躍でした。新聞でもたくさん報道されました。





平成16年8月22日(日)午後2:00 対馬丸記念館開館式典

午後2時から、対馬丸記念館開館式典が行われました。当日は、厚生労働省・内閣府の皆様をはじめ沖縄県・那覇市代表の方々、記念館建設に多大なお力添えを下さった建築設計・施行业者と展示業者の皆様、対馬丸遭難者遺族会歴代会長にもご列席いただき、盛大に式典を執り行うことができました。

当会会長高良政勝の挨拶、渡口理事からの経過報告の後、感謝状が贈呈されました。特に鹿児島県・悪石島の皆様には、42年もの間「対馬丸慰霊碑」を守り続けてくださっていることに感謝し、島を代表して来沖くだ



さった有川友里さん(悪石島中学校2年生)と有川建くん(悪石島小学校5年生)、新穂昌子先生に扁額の贈呈が行われました。「命どう宝」の扁額は沖縄県知事稲嶺恵一のご夫人稲嶺法子様揮毫によるものです。当日は稲嶺夫人から直接お渡しいただきました。

また、生存者マリア宮城・パートラフ氏のご主人デイブ・パートラフ様よりメッセージいただき、ご夫妻が通う協会のサンデースクールの児童が描いた平和メッセージ(ポスター)も頂戴しました

式典の最後に行われたテープカットでは、来賓のほか、対馬丸遺族代表西岡利美様、生存者代表上原妙氏、児童代表に天妃・若狭各小学校からの2名が、それぞれ参加くださいました。





撃沈から60回目の夜10時23分を、犠牲者に思いを寄せる遺族・来館者のみなさんとともに過ごしたいという思いから、夜の慰霊祭を行いました。当日は、夜9時50分から琉球古典音楽安富祖流絃声会若手の皆さんによる琉球古典音楽「十七八節」が慰霊演奏された後、全員で屋上へ上がりました。撃沈の時

刻に合わせて那覇港内に停泊中の船舶から汽笛を鳴らしていただき、それに合わせて参加者全員が黙祷をしました。時を共有し「二度と悲しみは繰り返しません」と犠牲者に誓いました。



平成16年8月22日(日) 企画展「平和の約束」

今年6月から募集した対馬丸の子どもへ贈る「平和の約束」が、当館企画展示室で全メッセージ展示されています。

全国の小中高16校と1団体から1600通のご応募をいただきました。

「平和の約束」メッセージ応募学校

【小学校】

前田小学校 伊良波小学校 天妃小学校 若狭小学校 宮城小学校 上原小学校 中城小学校 泊小学校 内間小学校 長嶺小学校 久茂地小学校(以上沖縄県) 上鷹見小学校(愛知県)

【中学校】

那覇中学校 西海南中学校(長崎県) 東中学校(埼玉県)

【高校】

中野工業高等学校(東京都)

【団体】

春日市少年の船(福岡県)





# トピックス



### 6月9日 落成式

建物の完成と引き渡しを祝い、関係者を招いて落成式典を行いました。



### 7月11日 菅原文太氏来館

俳優菅原文太氏が、記念館と小桜之塔の見学に訪れました。菅原さんご自身、戦時下での疎開体験をお持ちです。6月25日付日本経済新聞の会長の投稿「対馬丸 語り継ぐ悲劇」をご覧になり、対馬丸を語り継ぐ取り組みにお力添えいただけることになりました。翌12日、ラジオ「菅原文太の“日本の底力”」(ニッポン放送)の収録に、会長と生存者上原清氏が登場し、対馬丸記念館の開館と多数の来館を呼びかけました。(放送済み)

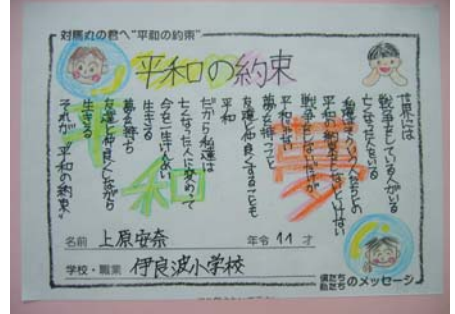
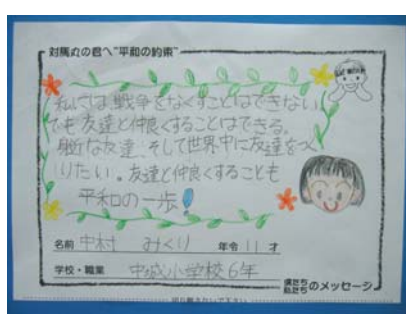
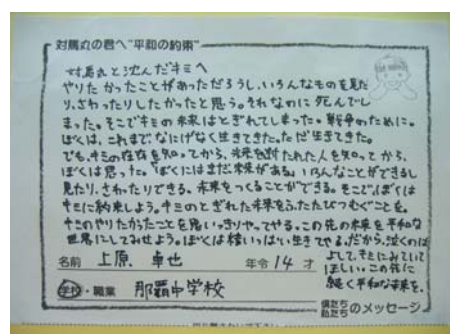
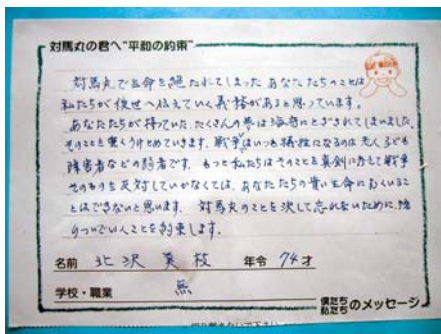


### 8月15日 遺族説明会および内覧会

遺族や支援者の皆様との関係強化を図り、意見や提言等を吸収して諸般の活動に反映させ、対馬丸記念会を支えるための組織拡大に努めることを目的に、新たな組織「対馬丸協会」を結成することにしました。(別紙参照)この日はご遺族のみなさんへの説明会を開催し、同時に完成したばかりの常設展示をご覧いただきました。

### 9月15日 内閣府視察

内閣府大臣官房会計課の大森雅夫課長他2名の来館視察がありました。高良会長と上原妙前会長の案内で展示をご覧になり、会長から展示物と経費の説明がありました。同行した田中課長補佐は「実際に記念館を訪れて初めて、対馬丸が訴えている事柄がよくわかりました」とコメントされていました。





# マスコミ報道、遺影収集に大きな成果

6月9日の落成式から8月22日の開館まで、新聞・テレビ・雑誌等多数のマスコミのみなさんに記念館に関する報道をしていただきました。この報道は、一般の方のみならずこれまで財団が連絡を取れなかったご

遺族のみなさんにも記念館建設を知っていただくことができ、遺品や遺影の収集にも大きな効果がありました。6月下旬から9月末日までに、あらたに45枚の遺影が届けられています。



## 引き続き遺影・遺品の収集にご協力下さい

上記記事にもありますように、対馬丸記念館では引き続き犠牲者の遺影や、遺品を探しています。直接の遺族がお持ちでない、同期・同窓生の集合写真に犠牲になられた方が写っていましたらご連絡下さい。

事務局で写真複写など後の作業はお引き受けします。遺族からの提供写真は、ほぼ出尽くしたと思われるので、今後は犠牲になられた方の同期・同窓の皆様のご協力が不可欠です。よろしくご協力下さい。  
※ 今回は10月末日までにこちらにお寄せいただいた遺影についてパネルに加工し展示させていただきます。



### 編集後記

開館から一ヶ月余りが経過、夏休みを終え入館者の減少は新聞報道に見るとおりだが、入館者増へ会長以下事務局スタッフ皆知恵を絞って打開策を模索中だ。いずれにしろ記念館の今後は遺族やサポーターの皆様のご協力無くしてはあり得ない。作って良かったと言われる記念館へ今後も努力あるのみだ。